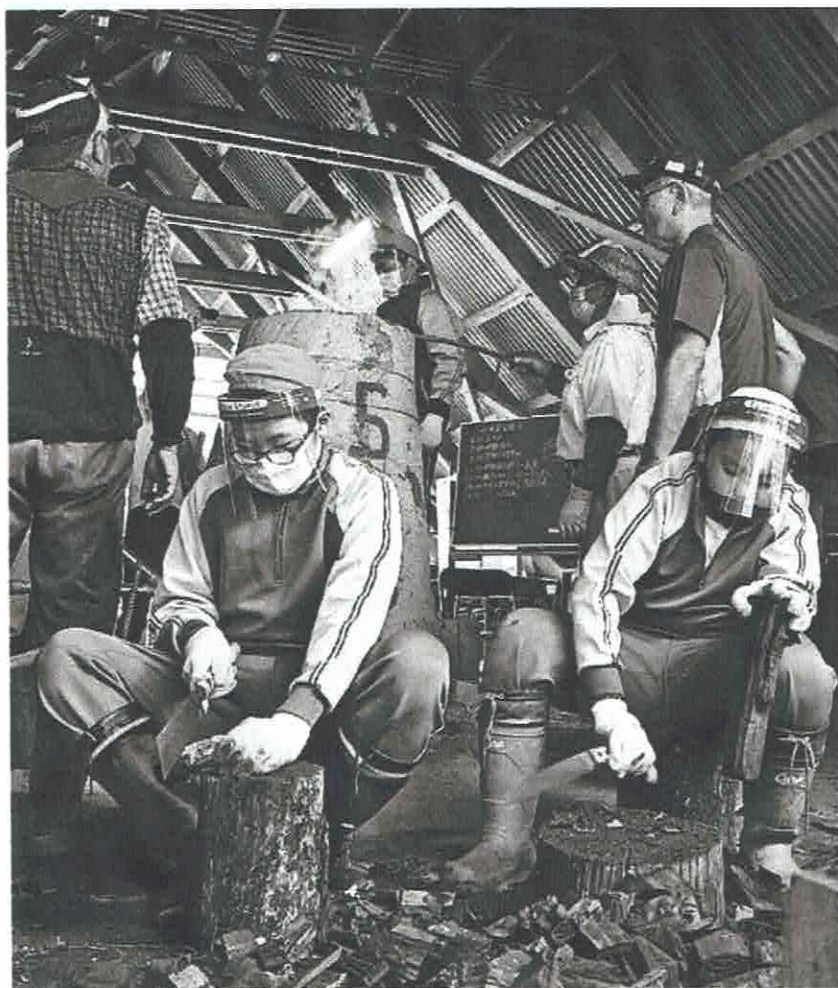


汗拭い たたら製鉄学ぶ 大原小児童が体験



ホッパの会メンバーの指導の下、
鉄作りを体験する大原小の児童

炎を上げる中、児童たちはのこぎりで木炭を切ったり、炉に砂鉄を入れたりして地域に伝わる鉄作りを体験した。

旧内野小で1999年に始まり、大原小に統合後も続けて26回目。8月に児童が採集したものなど約60kgの砂鉄を約5時間かけて加熱し、15kgほどの鉄ができた。奥州市の鑄造会社で卒業記念の文鎮に加工される。

真剣な表情でのこぎりを握った鈴木優斗さんは「炉の前は熱く、想像以上に疲れる。文鎮になるのが楽しみ」と笑顔で汗を拭いた。

一関

一関市の大鉄川たたら製鉄学習館で鉄会メンバーとボランティアとして大東中の生徒ら計約60人が参加。

校長、児童86人、6年生14人は18日、同市大東町の砂の継承に取り組むホッパの2基の炉がオレンジ色の